

まちづくりから広がる学生と地域の輪

北海道札幌篠路高等学校新聞局 局長 むねいし 宗石 ともき 知樹

今回僕は、広報さっぽろ「北区民のページ」の特集で「学生が参加するまちづくり」について取材するという活動を通して、さまざまな人とお話しする機会を頂きました。

まず最初に、鉄西地区で行われた「札幌もりもり!! もっこり祭」という行事で鉄西まちづくりセンターの米澤所長と話をしました。所長は、大学生への期待を話してくれました。「今の時代は地域と人との繋がりが薄れ、生まれたまちを離れていく人が多い中で、他の地域から来た学生がこの地区を愛して盛り上げようとしてくれていることに対する感謝と、学生にとってもこの地域での良い思い出づくりになってもらえれば嬉しい」と語ってくれました。

次に、祭りの実行委員会会長の風呂田郷史さんともお話をしました。風呂田さんは「このまちを自分たちの第二の故郷にしたい。そのために自分たちができることはないかと考え、自分たちでまちを盛り上げようと考えた」と話してくれました。祭りにはたくさんの方が来ていて、皆さんとても楽しそうにしていました。子ども向けの企画も多く、クイズ大会や野外でのアトラクションなどを楽しむ子どもの姿が目につきました。学生は祭りだけではなく、日ごろから地域の小学校と協力して、交通安全運動やキャンプなどで子どもたちとのふれあいの場を多く作り、企画に参加した子どもたちはみんな学生ととても楽しく過ごしていると聞きました。このように地域での楽しい思い出がたくさんできれば、子どもたちもこの地域を愛して、積極的にまちづくりに参加してくれるようになるのではないかなと思いました。また、祭りのイベントや露店の中には、他の地域からの出店も数多く見られました。これらは、頼み込んで来てもらったのではなく、学生が祭りの



▲実行委員会会長風呂田さん(右)へのインタビュー

運営について学ぶためにさまざまな地域の祭りに行き、その手伝いをしたつながりで参加していたのです。中には「ただ学生が騒ぎたいだけと思われ、冷やかな目で見られることもしばしばある」と悲しそうに話す学生もいましたが、学生の皆さんは、ただ、まちを思い、祭りを盛り上げているということ、この取材を通じて強く感じました。

この記事を通して、そのことがもっと多くの人に伝わってくれば幸いです。

次に僕たちは、幌北地区で、学生と地域の方々が互いに協力しながら活動している「学生と地域で考えるまちづくり会」の定例会議を訪ねました。残念



▲中川町から借りた名物「丸太相撲」の様子

ながら僕は流行していた新型インフルエンザにかかってしまい、行くことができませんでしたが、現場に取材に行った局員から「学生と地域の方々が協力してまちを盛り上げるため、行事の反省や予定について、お互いに意見を出し、協力してまちづくりをしようという熱意が感じられた。ここまで地域と学生が密着して活動に取り組む姿はとても珍しいと思った」と話を聞き、ここでもまた学生の地域に対する思いと熱意を感じることができました。

最後に「ほらほら幌北」という、幌北地区で学生と地域が協力して制作している冊子の編集作業を取材しました。この冊子は「学生と地域で考えるまちづくり会」が中心となり「まちづくりとは、その地域を知ること。それは人を知り、歴史を知り、文化を知ること。そして、その人となりや風情とふれあい、語らうことから始まる」という考えのもと、2007年6月に誕生しました。

今回、僕たちは作成中の「ほらほら幌北 vol.3『幌北の四季』」について、学生や地域の方々とデザイン会社との編集会議を取材させていただきました。ここでは、それぞれがより良い物を作るために一生懸命に話し合いをしていました。デザイン会社の社長は「編集者として本当に伝えたいことは何か



▲ほらほら幌北の編集会議

を明確にしなければならない」と学生に伝えていて、その言葉は新聞局にいる僕にも当てはまる言葉であり、深く心に響きました。

すべての取材を終え、広報さっぽろ「北区民のページ」の編集作業が始まりました。取材でご協力を頂いた皆様からは、たくさんの素晴らしいコメントを頂きましたが、全てが誌面に入りきるわけではなく、とても悩みました。そこで、先ほどの言葉を思い出し、「学生の地域に対する思い」を一番に伝えなければならないという考えに至りました。そして、北区役所の方にご協力いただき、何とか誌面が出来上がりました。

今回の活動は、僕たちにとって大変素晴らしい経験となりました。僕の住む地域でも夏祭りなどのイベントがたくさんありますが、年々規模も小さくなり、僕は寂しい気持ちを持ちつつもただそれを見ているだけでした。でも、この取材を通して自分でも地域のために何かできることがあると気づくことができました。これからは地域の一員として、いろいろなところで積極的に活動していきたいと思っています。



▲取材する篠路高校新聞局員

北海道札幌篠路高等学校

〒002-8053 札幌市北区篠路町篠路372-67

TEL011-771-2004 FAX011-771-2013